

(2) 道徳授業についての考え方

—— 豊かな道徳授業づくりに向けて

道徳の時間は、「各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。」

(「小学校学習指導要領 第3章道徳」)

道徳的価値の自覚

自己の生き方についての考えを深める

望ましい 人間関係の構築

教師と児童、児童と児童、教師と教師の人間関係を、明るく、信頼できるものにするよう心がけ、安心して意見が言い合えるような教室の雰囲気づくりを大切にする。

児童生徒の理解

児童の日頃の様子に目を配り、一人一人の児童の考え方、思い、言動、性格、経験等を掴んでおくよう心掛ける。授業の中での意図的指名にも生かす。

指導内容・資料研究

児童の実態から、指導したい内容を明確にし、資料と指導内容項目の各学年段階の解説をしっかりと読む。

「この資料では特にこの部分を指導しよう」という内容を主題名とし、ねらいを焦点化することで授業に筋が通る。

5つの視点

指導技術・指導過程

ねらいを頭に置き、児童に気づかせたい、考えさせたい発問を考え、展開を構成する。

深く考えさせたいところでは、話す活動、書く活動等を取り入れ、児童が考えをもち、互いの意見を交流し合えるようにする。

話し合いの場面では、意見の広がりや道徳的価値への深まりをねらい、意図的に指名したり、切り返したり、ゆさぶりをかけたりする。

導入と終末も明確なねらいをもち、展開とつなげた時に一つのストーリーになるように指導過程を工夫し、45分間の授業を構成する。

学び方

本来、児童は自分の思いや考えを語るのが好きな存在である。児童が気持ちよく語り合い、思いを通じ合わせることができるようになるための言語力を育てることも、道徳の授業を豊かなものにするためには必要なことである。

発達段階に応じた「聞き方・話し方・関わり方」を校内研修等で共通認識し、系統的に指導をしていく必要がある。

(注) 上の5つの視点は、田邊重任先生（現高知大学教育学部准教授）のこれまでの講話の中からご指導いただいた視点であり、この5つの視点を本校なりに捉え直し、文章化したものです。